

# 富山市の遺跡物語



開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡から出土した土偶

土偶は縄文人の精神文化に関わる遺物で、一般的に子孫繁栄や豊穡への願いをこめた児婦具のひとつと考えられています。

写真は、縄文時代中期中葉（約4,500年前）の堅穴住居内から出土した土偶です（p.6・7参照）。石組炉の底に13cmほどの厚さに土を入れ、土器の破片を並べた上に仰向けに寝かせるような形で見つかりました。土偶が堅穴住居や土坑などの遺構の中から見つかる例は少なく、このような出土状態は県内で初めての例となります。

出土した土偶は中期中葉に多くみられる有脚立像型の女性像で、高さは7.5cm、幅は5.6cmです。身体に比べて大きな頭部は額中央から後頭部にかけて隆み、顔面は胴部の延長上に作られています。乳房は顔面に接近した位置にあり、脚部は省略されて胴部から直に脚の甲につながります。頭部側面には編み込み髪が表現され、胴部から脚部にかけては沈線（しんせん）で文様が施されています。ほぼ完全な形ですが右足先だけが欠けており、人為的に割られた可能性があります。この土偶と似たタイプのものは、県内では庄川町松原遺跡・大沢野町直坂遺跡（国史跡）・婦中町各願寺前遺跡から出土しており、飛騨地方でも見つかっています。土偶を介した人々の交流がうかがえます。

### 第3回「奈良時代の富山を探る」フォーラム

近年、富山市栃谷南遺跡の瓦陶兼業窯から200点以上の軒丸瓦が出土し、大きな話題となりました。また、古代の官衙（役所）跡と思われる水橋荒町・辻ヶ堂遺跡や米田大覚遺跡など重要な遺跡の発掘調査が相次いでいます。このような新たな発掘調査の成果や考古学に対する市民の関心の高まりを契機として、「奈良時代の富山を探る」フォーラムを平成12年度から3年間開催してまいりました。

第1回目は「古代の道と駅」、第2回目は「古代北陸の国と郡の成り立ち」をテーマに行いました。最終回となる今回は「古代越中国の仏教と瓦生産」をテーマとしました。

富山市ではこれまで、昭和56年から平成6年にかけて「日本海文化を考える富山シンポジウム」を10回にわたり開催し、日本海文化の地域的特色について明らかにしてきました。フォーラムでは、先のシンポジウムの趣旨や成果を踏まえながら、「奈良時代の富山」という、より身近なテーマに視点を向け、古代の地域文化の特色を更に深く考察しました。



上原真人氏による特別講演

#### ●第3回フォーラム「古代越中国の仏教と瓦生産」の概要

平成14年10月6日(日)、水橋ふるさと会館を会場にフォーラムを開催しました。テーマは「古代越中国の仏教と瓦生産」。地元水橋の皆さん、県内外の研究者など約180名の参加者がありました。

フォーラムは事例報告、特別講演、基調講演、「古代越中国の仏教と瓦生産」についての討論会の四部構成で、当日のプログラムは次のとおりです。

#### □事例報告

県内報告 鹿島昌也（富山市教育委員会埋蔵文化財センター学芸員）「富山市栃谷南遺跡について」

地元紹介 林 實（水橋郷土歴史会会長）「常願寺川変遷史からみた水橋」

□特別講演 上原真人（京都大学大学院教授）「瓦からみた北陸の古代寺院の様相」

□基調講演 吉岡康輔（国立歴史民俗博物館名誉教授）「フォーラムの総括と展望」

#### □フォーラム「古代越中国の仏教と瓦生産」

司会 吉岡康輔

コメンテーター 坂井秀弥（文化庁主任調査官）

「北陸の古代寺院・官衙と風土との関係」

パネリスト 上原真人

酒井清治（駒澤大学教授）「古代東国と北陸の初期寺院の瓦」

久保智康（京都国立博物館工芸室長）「仏教遺物からみた北陸の古代寺院」

西井龍儀（富山考古学会副会長）「越中の寺院建築と栃谷南遺跡」

鹿島昌也

事例報告では、鹿島昌也氏による富山市栢谷南遺跡の発掘調査の成果がスライドを交えて紹介されました。また常願寺川の地勢的特色について林實氏の報告がありました。

特別講演は、上原真人氏による「瓦からみた北陸の古代寺院の様相」で、北陸における瓦の系譜と伝播状況の変遷の特色について明らかにされました。

基調講演は、3年間フォーラムの司会をしていただいた吉岡康暢氏による「フォーラムの総括と展望」で、古代北陸の社会・政治・文化に4つの画期があることを提言され、律令国家の実像を浮き彫りにされました。

吉岡康暢氏司会による「古代越中国の仏教と瓦生産」フォーラムでは、コメンテーターに文化庁の坂井秀弥氏を迎え、酒井清治氏、久保智康氏、西井龍儀氏を加えた5人のパネリストにより、文献史学や考古学などの多様な視点からのアプローチがなされました。

古代越中国においては、瓦や瓦塔、仏具写しの須恵器など仏教系遺物が出土する遺跡や塔心礎が残る遺跡はありますが、瓦葺き建物跡を確認した遺跡はほとんどありません。そのような中、栢谷南遺跡から出土した大量の瓦や仏教関連遺物は、その供給先は未だ不明であるものの、7世紀後半に射水丘陵で開始された小杉丸山窯の瓦生産の系譜を引き継ぐものであることが指摘されました。

また8世紀後半には、越中国分寺造営を契機に新たな造瓦技術の導入が見られ、越中国守として赴任した大伴家持がどのように関与していたのか、地域の政治や仏教の中枢を担っていた官衙関連遺跡の解明が待たれるという意見もありました。

さらに、窯業生産地と郡や郷域との関連などが取り上げられ、豪族や村落首長が仏教文化をどのように受け入れていったかなど、今後の課題や研究につながる大きな成果を挙げることができました。

またフォーラムと併せて、(財)水橋郷土史料館において、関連企画展「水橋の遺跡物語Ⅲ」展を平成14年10月1日(火)から10月14日(月)まで開催しました。水橋金広・中馬場遺跡、水橋専光寺遺跡、小出城跡、水橋荒町・辻ヶ堂遺跡など縄文時代から江戸時代にわたる水橋地区の遺跡出土品を一堂に集め展示しました。期間中には大勢の来館者があり大盛況でした。



会場での展示



「水橋の遺跡物語Ⅲ」展

## 北代縄文広場この1年 —2002年度—

### 1 主なできごと

ダーラム市の中学生親善交流訪問団が土器づくり体験 平成14年6月18日(火)

富山市と姉妹友好都市であるアメリカノースカロライナ州ダーラム市から中学生15名が土器づくり体験に挑戦しました。

野焼きした土器は、富山市埋蔵文化財センターに展示してあります。

土器づくり体験⇒



縄文アドベンチャーキャンプ 平成14年7月20日(土)～8月25日(日)

5校下が参加し、縄文土器づくり、勾玉づくり、火おこしなどを体験しました。雄川、堀川南、萩浦の3校下は復元された縄文住居に宿泊しました。

平成14年7月20日(土)～21日(日) 雄川校下 参加者23名

平成14年8月3日(土)～4日(日) 堀川南校下 参加者28名

平成14年8月10日(土)～11日(日) 五福校下 参加者53名

平成14年8月17日(土)～18日(日) 萩浦校下 参加者45名

平成14年8月24日(土)～25日(日) 神明校下 参加者32名

勾玉づくり体験



富山西ライオンズクラブ(加藤竹男会長)から寄付 平成14年11月6日(水)

常圧式土練機(1台)・屋外椅子テーブルセット(6組)・パイプ椅子(10脚)・パソコン用のカラープリンタ(1台)が、体験学習用備品として寄付されました。

土練機は「縄文土器づくり」の粘土をつくるのに大いに役立っています。

土練機を使用した粘土づくり⇒



菊花展 平成14年10月29日(火)～11月3日(日)

第18回長岡校下住民文化展(主催 長岡校下ふるさとづくり推進協議会)が開催され、縄文広場が菊花展の会場として利用されました。

菊花展風景⇒



雪まつり 平成15年2月1日(土)

長岡校下ふるさとづくり推進協議会の主催で、「縄文広場で雪まつり」が積雪約50cmのなか開催されました。左義長、餅つき、的あてゲーム、縄文土器づくりなどが行われ、地元から約350名の参加者があり、親睦を深めました。

餅つき風景⇒



## ソバづくり体験 平成14年7月上旬～12月上旬

平成13年度に湧水地付近の西側に広さ約80㎡の「縄文畑」をつくりました。その畑を利用して、中林恭一氏(北代縄文広場解説ボランティア)の指導のもと、ボランティア研修の一環として試験的にソバづくり体験を行いました。

7月に中林治信さん(解説ボランティア代表)や「14歳の挑戦」に参加中の日水君、田嶋君(奥田中)・志鷹君(新庄中)の協力を得ながら、土をいれて畑づくりを行い、ソバの種を蒔きました。1～2週間ほどするとソバの芽が出始め、白い花が少しずつ咲いてきました。

9月になると、50cmほど伸びたソバの先には、白い花が咲きそろい、一面白いじゅうたんのようでした。

10月にソバの刈取りを行いました。1kgまいたソバの実は、約4倍になりました。

12月に収穫したソバの実の3kg分を粉にして(残り1kgは来年の種まき用に残してあります)、ソバ打ち体験を行ったところ、小皿で約60人分のソバが出来上がりました。今後は、来場者にソバづくり体験が指導できるようにしていきたいと考えています。



一面に咲いたソバの花



ソバ打ち風景

## 第2期整備(2区)完了

平成14年度は、広場東側の隣接地を盛土造成し、その上に芝を張る整備を行いました。今後は、周辺との一体的な活用を図っていく予定です。

また、整備地内には、桜の木があり、春にはよい花見の場所になることでしょう。

来場者のみなさまには、幅広い活用場所として、利用していただきたいと思います。

完成間近の整備地→



## 2 紹介

森浩一 2001.4 「北代縄文広場」『関東学をひらく』朝日新聞社

祭祀考古学会編 2001.12 「祭祀遺跡情報」『情報祭祀考古』21

古川知明 2002.3 「富山市北代遺跡の史跡整備」『明日への文化財』48号文化財保存全国協議会

富山市観光協会 2002.7 「古代人と遊ぶ 富山市北代縄文広場」『観光とやま』No.88

富山市 2002.9 「縄文の風を感じる 富山市北代縄文広場」『広報とやま No.1237』

富山市 2002.11 「いい人発見 in とやま 地元の北代遺跡に愛着を北代縄文広場解説ボランティア」『広報とやま No.1242』

ひらきがおか

## 開ヶ丘地内の遺跡群

開ヶ丘地区は富山市の南西部、標高50～75mの射水丘陵の東端部に位置します。県営畑地帯総合整備事業に伴う調査として、平成14年度は7遺跡（開ヶ丘中山Ⅰ・開ヶ丘中山Ⅲ・開ヶ丘中山Ⅳ・開ヶ丘中・開ヶ丘ヤシキダ・開ヶ丘狐谷Ⅲ・開ヶ丘狐谷Ⅳ遺跡）の発掘調査を行い、縄文時代中期や平安時代前期の集落を確認しました。

## 縄文人の居住空間

ひらきがおかやまさん

ひらきがおかまつおだにさん

## 開ヶ丘中山Ⅲ遺跡・開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡

## ●開ヶ丘中山Ⅲ遺跡

昨年度と合せて10棟の<sup>せきあな</sup>竪穴住居が見つかり、縄文時代中期前葉から中期中葉（約5,000～4,500年前）に営まれた集落であることがわかりました。

竪穴住居は狭い範囲に集中して見つけられました。そのうちの3棟は重なり合っており、同じ場所でも何度も建て替えを行いながら幾世代にもわたって暮らしていたことがわかりました。



右から第4・7・8号竪穴住居(南から)

## ●開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡

開ヶ丘中山Ⅲ遺跡から東方200mの地点に所在する縄文時代中期前葉から中期中葉（約5,000～4,500年前）に営まれた集落です。本年度の調査では中期中葉の竪穴住居が4棟見つかりました。いずれの住居も遺存状態が良く、20～70cm程のしっかりとした掘り込みが確認されました。

第3号住居は長円形の住居で長軸5.5m、短軸4.4mの大きさです。住居の中央に地面を浅く掘り窪めて火を焚いた炉（<sup>ちしきょう</sup>地床炉）があります。第1・2・4号住居は円形の住居で、直径4～5mの大きさです。住居の中央には石を組んで作った炉（石組炉）があります。炉の中はよく焼けており、長期にわたって使用されていたことがわかりました。

住居内からは、住居が廃絶した後に捨てられた縄文土器や磨製石斧などが見つかりました。



第1号住居跡(北から)



第4号住居の炉内から出土した土偶

第4号住居の石組炉の中からは土偶どぐわが見つかりました(表紙参照)。人為的に置いたような様子であることから、この土偶を使った何らかの祭祀が住居内で行われたと考えられます。

本遺跡の未調査の範囲にも多くの堅穴住居が存在する事がわかっており、今後の調査により集落全体の構造の解明が期待されます。

#### ●開ヶ丘中山Ⅲ遺跡と開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡の関係

2つの遺跡は隣接した地区にあります。同時に営まれた時期もあり、密接な関係を持っていたと考えられます。集落の主体は、はじめは開ヶ丘中山Ⅲ遺跡にありましたが、後に開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡へと移っていったようです。

2つの遺跡の間にある谷地には湧水があり、縄文人たちにとって生活の場として適していたのでしょう。

## 平安時代の工人集落

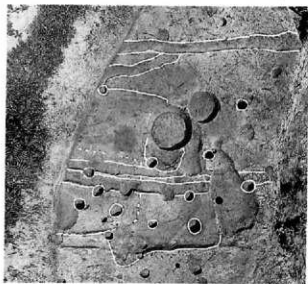
開ヶ丘ヤシキダ遺跡は開ヶ丘の平坦部に位置する、平安時代前期(約1,150年前)の集落です。独立柱建物8軒・堅穴住居6棟・土師器焼成坑4基・製炭土坑2基・道路遺構などが確認されました。

土師器は直径1~2m程の土坑の中に土器を並べて、藁や灰土をかぶせて焼く“覆い焼き”という方法で焼かれていました。土師器焼成坑からは、焼成に失敗し捨てられた甕・鍋などの煮炊用の土器が多く見つかりました。この遺跡では煮炊具を専門に生産していたと考えられます。

同時期の土師器焼成坑が見つかった遺跡は周辺に2ヵ所(向野池遺跡・ガメ山遺跡)あります。隣接する開ヶ丘中遺跡でも、本遺跡より少し後の時期の土師器焼成坑が見つっています。

本遺跡と開ヶ丘中遺跡は、ほぼ同じ時期に集落が形成されていました。開ヶ丘中遺跡の堅穴住居群の中心を通るように道路があり、それは本遺跡で見つかった道路につながっていると推定されます。集落の内容も類似する点が多いことから、これら2つの遺跡は同じような性格をもつ一連の集落で、東側に隣接する山中奥池の東岸に沿って営まれていたようです。(山崎美和)

### ひろががが 開ヶ丘ヤシキダ遺跡



堅穴住居群(北から)



土師器焼成坑から出土した土器

## 古墳を削って営まれた中～近世の館跡 やかた おがほしかおひろ なかばん ば 水橋金広・中馬場酒跡

水橋金広・中馬場酒跡は、富山市水橋の上条地区を流れる白岩川中流右岸にあります。これまでの調査で若王子塚古墳（直径46mの円墳）・宮塚古墳の北側に鎌倉時代から江戸時代前期（約800～300年前）の屋敷（館）跡を確認していました。安土桃山時代（約350年前）の土坑からは国内で初の完全な厚板状双六盤が出土し注目されました。



### ●水田の下に埋もれた古墳

今回、若王子塚古墳の南側を調査したところ、古墳から約20m離れた位置に直径約11m、幅1.4～1.7m、深さ10～20cmの円形にめぐる溝を検出しました。溝は形状から古墳の周溝と推定されます。江戸時代前期に掘られた溝がこの周溝を横切っていることから、古墳の墳丘は江戸時代前期より前に削られてしまったようです。

ここからさらに南約100mにも、直径8～9mの半円状の溝が見つかり、この溝も古墳の周溝だったようです。溝からは古墳時代中期後半（1,500年前）の土師器の椀が出土しました。

白岩川流域には多くの古墳が存在しています。若王子塚古墳や立山町稚児塚古墳（円墳）、舟橋村竹内天神堂古墳（前方後墳）では、現在でも大きな墳丘を見ることができます。しかし、本遺跡のように後世に墳丘が削平され、水田の下に周溝だけが残ったものも多くあるようです。

この遺跡が属する古代の新川郡域は、江戸時代に加賀藩領となって新田開発が奨励されました。慶安～明暦期（17世紀中頃・江戸時代前期）には前田利常による各種の農政改革「改作法」が集中的に行われ、新田の割合が他の郡に比べて多くなります。古墳が削平された背景には、このような開発による耕作地の拡大政策があったとみられます。

### ●鎌倉～江戸時代の屋敷（館）跡

鎌倉時代～江戸時代前期には、直行あるいはL字形に折れる深い溝（堀）によって方形に区画された屋敷（館）跡に、もってばししししししし 掘立柱建物や井戸、なてあてとてういこ 堅穴状遺構を配置しています。

屋敷地を区画する溝には江戸時代になって①中世の溝をそのまま継続して使うもの、②中世の溝が埋まった後、同じ場所や同じ方向に並行して掘られた溝があります。ほ場整備前までの古い地割には「表屋敷」という字名が残り、この地がかつて屋敷地であったことを物語っています。



鎌倉時代後期の井戸と漆碗出土状況



### ●鎌倉～安土桃山時代の井戸と漆器碗

今回の調査で新たに井戸が約70基検出され、その内の15基に木組みや石組みなどの井戸枠を確認しました。鎌倉時代後期(約750年前)の井戸は、楕円形曲物の水溜めと木組み(縦板 隅柱 横板留め)の井戸枠からなっています。この井戸を作る過程で、井戸枠の裏側に無紋の黒漆塗りの碗を上向きに据えて埋めていました。井戸の神様をうやまい、井戸水が湧き続けることを願って漆碗を埋めたものと考えられます。今回のように井戸の構築時における祭祀を確認できる例は数少なく、身分の高い人が使っていた可能性があります。

安土桃山時代の出土品の中には、県内の城館やその関連遺跡からのみ出土する「鶴丸文」などの文様を描いた漆器碗がみられ、その時期の屋敷地は城館的な機能を持っていたと推測されます。

本遺跡の南方2kmの舟橋村には弘生寺城(16世紀前半)があり、白岩川を挟んだ南西には竹内館跡推定地が所在します。北方2kmには新川郡の上杉勢に対し織田方の佐々成政が最前兼基地としていた小出城(16世紀後半)が築かれます。本遺跡は弘生寺城と小出城の中間に位置し、戦国～安土桃山時代の動乱の世に活躍した人々が残した館跡とも考えられます。



鶴丸文が描かれた漆碗

### ●江戸時代前期の豊漁を祈った井戸

農具の木摺臼(きずりうす)を水溜めに転用した井戸が2基検出されました。1基は漁具の「ヤス」を線刻した木摺臼で、下臼の側面に2本の「ヤス」が描かれていました。木摺臼は外径45cm 現存高約30cmを測り、円筒形に割りぬいて逆さまにして置かれていました。もう1基は線刻はありませんが、円筒形に割りぬいた木摺臼を逆さまにし、石でまわりを固定してその上に一回り大きな曲物を据えています。木摺臼は外径37cm 現存約26cmを測り、線刻のあるものに比べやや小型です。

「ヤス」画線刻の木摺臼を水溜めに転用した井戸は、平成12年度にも若王子塚古墳の西側で見つかっています。今回の調査で2例目となり、国内では他に例がなく大変珍しいものです。これらの井戸内からは江戸時代前期の越中瀬戸焼が出土しています。

豊漁を象徴する木摺臼に「ヤス」を描いたのは、近くを流れる白岩川での豊漁祈願と関係があるのかもしれませんが。

さらに本遺跡では、漁具のタモや掬網に用いたとみられる弧状木製品が計4点出土しました。今回、土釜もわずかながら出土し、ヤス漁のほかに網を使った漁も行われていたことが分かりました。



本遺跡は中世の城館的な性格の屋敷(館)として成立し、江戸時代前期には川魚漁と新田開発による米作りを行う集落へと変化していく様子をよく物語っています。(鹿島昌也)

## 寺崎氏の願海寺城か

願海寺城跡は射水平野に立地する戦国時代（約450年前）の平城です。文献によると、上杉謙信方の寺崎民部左衛門盛永が居城し、天正9年（1581）織田信長勢に攻められ落城したと伝えています。

願海寺地内には加茂社があり、その周囲の小字「館木」地内に城跡が存在すると推定されていましたが、今回の調査で初めて城の一部を確認しました。

調査では、郭の一部とそれを取り巻く二重の水堀を検出しました。内側の堀は深淺二段に掘られており、郭側の浅い部分は幅4～6m、深さ0.2m、深い部分は幅5.0～5.5m、深さ1.4mあります。深い堀は途中で切れ、幅50cmの通路（土橋）が設けられています。浅い部分には、郭方向から多くのかわけ、漆碗、木製品、モモの種等食料残滓のほか、木簡、将棋の駒が廃棄されていました。

外側の堀は内堀の外1.5mにあり、規模は不明です。これらの堀に水を湛えると幅10m以上の大規模な水堀が出現します。城の関係者でないと土橋の位置がわからず深堀にはまることとなります。防御のための工夫であったのかもしれない。

やがてこの堀は埋立てられ、郭部分も20cmほど盛土して整地が行われました。堀の位置は2m外側にずらされ、城の拡張工事が行われました。

出土した木簡には、表に「たてわき」、裏に「暫？わりたて己」と墨で書かれています。「たてわき」はおそらく人の通称、裏面は命令文などの可能性があります。

将棋駒「歩兵」は少し変わった書体で書かれています。線刻で「大」という字も見えます。裏面には金をあらわす「今」という字があります。14世紀頃に生まれた中將棋という形態の将棋が富山でも武将たちに流行していたことを示す貴重な資料です。

（古川知明）

## かんかいじ 願海寺城跡

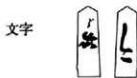


堀や井戸の検出状況（東から）



（表） （裏）

木簡（長さ11.6cm）



文字



線刻

（表） （裏）

将棋駒「歩兵」（長さ3.8cm）

## 石垣の構造確認調査を行う

とやまじょうぶ  
富山城跡

富山城跡は富山市中心部にあり、現在は富山城址公園として整備されています。越中守護代神保氏による築城といわれ、佐々成政の入城、富山藩主前田利次の居城など戦国～江戸時代まで変遷がみられます。廃藩置県後に城は解体され、堀は一部埋められました。また天守閣は昭和29年の富山産業大博覧会の際に建設されたものです。富山城は廃城後かなり手が加えられていると考えられます。

石垣の耐震対策工法が検討されることとなり、それに伴って、8月半ばから9月初めまで調査を行いました。城の北東側、搦手東出門（裏門）の石垣を対象に、上から6段目までの石垣25個を取り外して構造を確認しました。また階段状に積まれた石垣基礎部分を深さ1.5mまで掘り下げました。

石垣の積み方は、上部と隅角の部分が算木状に整然と並行に積みられ、中央部はバラバラな乱積み状態です。

調査の様子

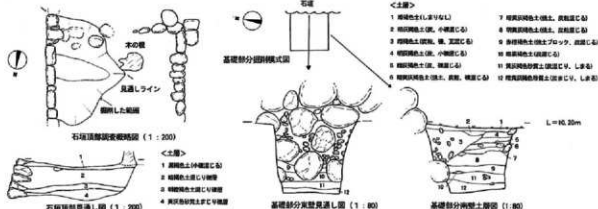


整形された花崗岩と自然転石と思われる球状の安山岩等が使われており、拳大の礫や割った石片で固定し、すきまに扁平な小円礫を挟み込んでいました。内部構造は、頂部から10cm位まで黒褐色土があり、その下は裏込めとなる栗石（拳大の礫）が充填されています。深さ2.4mまで掘り下げましたが、栗石の層が続き、基礎となる土や粘土の層は確認できませんでした。

出土遺物には瓦、羽目、レンガ等があります。瓦は石垣頂上で採集したものは古めのいぶし瓦でしたが、裏込めから出土した瓦は江戸時代後半のもの、油粟の施した明治時代以降のものとみられ、調査した石垣の上部は後世に積み直しされた可能性が高いと考えられます。また、基礎部分では球状の石が地表下へ2段続き、かなりすきまがみられます。基底の石は厚さ10cm位の焼土層（遺物なし、時期不明）を掘り抜いており、幾度か起った大火の後に積み直しされたものと考えられます。

また、富山大学理学部による地中レーダー探査を継続的に行っているほか、今後も石垣の測量調査、刻印調査、試掘確認調査等を行う予定で、絵図や文書に記された富山城跡が現状でどの程度残されているかを総合的に確認していきます。

(小林高範)



## 縄文時代中期の大集落

北代遺跡は、市街地の西方約3kmの呉羽山丘陵北西麓に位置します。遺跡は北陸を代表する縄文時代中期の大規模集落として、昭和59年に国の史跡に指定されました。

平成11年には縄文時代の集落を復元して、「富山市北代縄文広場」を整備しました。平成13～14年度の隣接地整備に伴い、本年度に16㎡の試掘確認調査を実施しました。調査は北代縄文広場解説ボランティアの協力を得て行いました。

調査の結果、縄文時代中期後葉(4,500年前)の竪穴住居跡2棟と土坑を確認しました。

これまでの調査で竪穴住居は76棟確認されており、今回の調査により78棟になりました。

1棟は壁や床の一部を確認しました。床には厚さ10cmの粘土が敷かれ、土間となっています。他に土坑2基があります。住居の中からは縄文土器・石器(打製石斧・磨製石斧・凹石)・炭化物・骨が出土しました。集落が最も栄えた中期後葉は、集落の中心に広場と掘立柱建物があり、それを取り囲むように竪穴住居が配置されます。住居は北側で多く確認されていましたが、今回の調査で東側にも多くの住居が存在したことが分かりました。

(堀沢祐一)



第77号竪穴住居

## 奈良・平安時代の役所跡？

水橋二杉遺跡は常願寺川右岸に位置する、縄文時代晩期(約3,000年前)から江戸時代(約200年前)にかけての集落遺跡です。中でも奈良・平安時代(約1,200年前)が中心で、これまでの調査で掘立柱建物や溝などの遺構が見つかっており、「若刀呂」、「犬」と書かれた墨書土器が出土しています。

平成14年度の調査では、2間×2間の掘立柱建物2棟(3.0×2.4m、3.4×3.4m)が検出されました。これらの建物は小型ながら総柱の構造であることから、倉庫跡と考えられます。遺物では、則天文字で人を意味する「生」と書かれた墨書土器、「女」の文字が刻まれた刻書土器、土器を硯として使用した絞用硯、漆が付着した土器などが見つかっていました。則天文字とは中国唐代の則天武后が考案した文字で日本では呪術的な意味合いを持つ文字として書かれたようです。これらのことから奈良・平安時代の本遺跡は、官衙的性格をもつ集落と考えられます。(安達志津)



掘立柱建物(北から)



墨書土器と刻書土器

## 平成14年度埋蔵文化財センター事業

### 1 埋蔵文化財調査

●発掘調査 開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です(3月末現在)。

遺跡名(市No)	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	時代	遺跡の種類
今市(Na.010)	八幡	個人住宅建築(擁壁工事)	46	弥生終、平安、室町	集落(2層)
今市(Na.010)	八幡	個人住宅建築	60	奈良・平安	集落
願海寺城跡(Na.066)	願海寺	個人住宅建築	90	戦国、江戸	城館
北代(Na.125)	北代	個人住宅建築	169	縄文中～晩	粘土探掘坑、集落
茶屋町(Na.162)	北代	兵羽山公園都市緑化直物園整備事業	465	不明	集落
水橋二杉(Na.217)	水橋二杉	個人住宅建築	190	縄文晩、弥生、奈良、平安、中世、江戸	集落
水橋金広・中馬場(Na.251)	水橋金広・中馬場	県営農産農道整備事業	3,426	縄文、弥生終、古墳前、奈良～江戸	集落、城館、古墳
古沢下堤池東(Na.297)	古沢	管理設工事	182	奈良、中世	集落、その他の生産遺跡(製成)
開ヶ丘中山III(Na.441)	開ヶ丘	県営畑地帯総合整備事業	450	縄文中、古代	集落
開ヶ丘ヤシキダ(Na.445)	開ヶ丘	県営畑地帯総合整備事業	701	平安	集落、その他の生産遺跡(土師器焼成)
開ヶ丘中山I(Na.446)	開ヶ丘	県営畑地帯総合整備事業	562	縄文晩	集落
開ヶ丘中山IV(Na.448)	開ヶ丘	県営畑地帯総合整備事業	508	平安	集落
開ヶ丘中(Na.449)	開ヶ丘	県営畑地帯総合整備事業	1,750	平安	集落
開ヶ丘狐谷III(Na.455)	開ヶ丘	県営畑地帯総合整備事業	7,802	縄文中、古代	集落、その他の生産(炭)
北代西山II(Na.594)	北代	兵羽山公園都市緑化直物園整備事業	243	平安	生産
開ヶ丘狐谷IV(Na.606)	開ヶ丘	県営畑地帯総合整備事業	488	平安	生産
					計16件 調査面積17,132m <sup>2</sup>

●試掘確認調査 開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です(2月末現在)。

遺跡名(市No)	所在地	調査原因	対象面積(m <sup>2</sup> )	遺構/遺物
打出(Na.009)	打出	駐車場造成	264	遺跡なし
打出(Na.009)	打出	組合施行土地区画整理事業	174,422	竪穴住居・溝・土坑(弥生)、溝・土坑・柱穴(中世) / 縄文土器、弥生土器、土師器(古墳)、須恵器・土師(平安)、土師器・珠洲・八尾・越前・青磁・陶製円板・漆器柄(中世)、陶器・伊万里(江戸)、鉄、磁石
今市(Na.010)	八幡	個人住宅建築	340	溝・土坑(奈良) / 土師器(奈良)
今市(Na.010)	八幡	公民館建築	1,454	遺跡なし
今市(Na.010)	八幡	個人住宅建築	490	土坑(弥生)、畑跡(平安又は中世) / 弥生土器、土師器・須恵器(平安)、土師器(中世)
今市(Na.010)	八町東	個人住宅建築	500	遺跡なし
今市(Na.010)	布目	個人住宅建築	500	遺跡なし
今市(Na.010)	八町東	個人住宅	207	珠洲(中世)
四方荒屋(Na.014)	四方荒屋	個人住宅建築	300	土師器(古墳前)
横越(Na.035)	横越	特別養護老人ホーム建築	815	縄文土器(晩期)
水橋荒町・辻ヶ堂(Na.044)	水橋辻ヶ堂	資材置場造成	500	溝(平安)、溝(中世) / 縄文土器、土師器・須恵器・木器(平安)
水橋荒町・辻ヶ堂(Na.044)	水橋辻ヶ堂	個人住宅建設	383.1	遺跡なし
小出城跡(Na.055)	水橋小出	一般県道下砂子坂池田町線道路改良工事	250	護岸石列(中世)、堀(中世～近世)、井戸、土坑 / 土師器・珠洲・漆器・板(中世)、越中瀬戸(江戸)、曲物
願海寺城跡(Na.066)	願海寺	個人住宅建築(浄化槽埋設)	5.5	土坑・堀(戦国) / 土師器(戦国)
願海寺城跡(Na.066)	願海寺	個人住宅建築	341	土坑・堀(戦国) / 土師器・白磁・瀬戸美濃・石臼・板(戦国)
願海寺城跡(Na.066)	願海寺	個人住宅建築	181.8	溝・土坑(戦国) / 瀬戸美濃(戦国)

遺跡名(市No.)	所在地	調査原因	対象面積(m <sup>2</sup> )	遺構/遺物
願海寺城跡(No.066)	願海寺	個人住宅建築(擁壁工事)	90	溝・井戸・土坑(戦国) / 珠洲(中世)、土師器・木器(戦国)
東老田Ⅲ(No.071)	東老田	店舗建築	392	弥生土器
東老田Ⅰ(No.072)	東老田	個人住宅建築	629	遺跡なし
東老田Ⅰ(No.072)	東老田	ドライブイン建築	1,785	遺跡なし
東老田Ⅰ(No.072)	東老田	個人住宅建築	495	遺跡なし
八町Ⅱ(No.109)	八町南	個人住宅建築	999	遺跡なし
八町Ⅱ(No.109)	八町・北代	県営農免農道整備事業	690	溝・土坑(古墳前)、溝(平安) / 弥生土器(中・後期)、土師器(古墳前)、土師器・須恵器(平安)、中世土師器・越前・八尾(中世)
八ヶ山A(No.110)	八ヶ山	県営農免農道整備事業	1,650	溝・土坑(古墳前) / 縄文土器、土師器(古墳前)、瀬戸美濃・珠洲(中世)、越中瀬戸(近世)
北代村巻V(No.119)	北代	個人住宅建築	1282.7	遺跡なし
北代加茂下Ⅲ(No.120)	北代新	一般県道小竹諏訪川原線道路改良工事	460	竪穴住居(縄文中) / 縄文土器・凹石・打製石斧(縄文中)
北代(No.125)	北代	北代縄文広場第2期整備工事	1,043	竪穴住居(縄文中) / 縄文土器・磨製石斧・打製石斧・凹石・磨石・石錘(縄文中)、須恵器・土師器(古代)
中富居(No.206)	上富居	分譲地造成	7,216	遺跡なし
水橋二杉(No.217)	水橋二杉	個人住宅建築	1,000	溝・道路(古代)、土坑 / 土師器・須恵器(奈良)、土師器(室町)、伊万里(江戸)
清水堂古墳(No.243)	水橋清水堂	墓地造成	13	古墳盛土
水橋金広・中馬場(No.251)	水橋金広・中馬場	排水溝埋設工事	11	遺跡なし
中老田南Ⅳ(No.277)	中老田	駐車場造成	442	遺跡なし
中老田南Ⅳ(No.277)	中老田	駐車場造成	192	土師器(古代)
古沢窯跡(No.296)	古沢	ファミリーパーク自然体験センター新築外構機械設備工事	115	遺跡なし
古沢下場池東(No.297)	古沢	#	84	古代遺物包含層 / 須恵器・土師器(古代)
大峪城跡(No.396)	五福	自転車小屋設置工事	34.7	遺跡なし
坂下新Ⅰ窯跡群(No.435)	三熊	資材置場造成	2,370	炭窯(古代) / 炉壁(古代)
開ヶ丘中山Ⅲ(No.441)	開ヶ丘	県営畑地帯総合整備事業	5,800	製鉄炉(古代)
開ヶ丘ヤシキダ(No.445)	開ヶ丘	#	170	縄文土器(中期)
開ヶ丘中山Ⅰ(No.446)	開ヶ丘	#	5,500	土坑(縄文)、焼壺土坑(古代) / 縄文土器
開ヶ丘中山Ⅳ(No.448)	開ヶ丘	#	2,500	遺跡なし
八日町(No.481)	黒崎	事務所・倉庫建築	1,107	遺跡なし
上新保(No.497)	上新保	個人住宅建設	157	遺跡なし
友杉(No.500)	友杉	県営公害防除特別土地改良事業	83,313	川(奈良)、土坑・溝(平安)、土坑・溝(中世) / 土師器・須恵器・製塩土器・麻輪・灰輪、刀子(奈良・平安)、土師器・珠洲・八尾・瀬戸美濃・青磁・白磁・石鏡・砥石・瓦質陶器・骨蔵器・羽口・鉄滓(中世)、越中瀬戸・伊万里(近世)
上野井田(No.513)	二俣	マンション建築	1,202	中世土師器、珠洲焼(中世)
上野井田(No.513)	二俣	レストラン新築・駐車場造成	1,718.5	竪穴住居(奈良)、竪穴住居(平安)、土坑・溝(古代) / 縄文土器(後～晩期)、土師器・須恵器(奈良・平安)、珠洲(鎌倉)、八尾(中世)
石田北(No.517)	石田	個人住宅建築	412	川跡(中世～近世) / 土師器、珠洲・板(中世)、近世陶器
吉岡(No.525)	吉岡	店舗建築	827	竪穴住居(中世)、溝・畑(古代・中世) / 縄文土器(晩期)
宮保(No.529)	宮保	個人住宅建築	198	遺跡なし
布市北(No.532)	布市	携帯電話基地局建設	495	遺跡なし
関(No.535)	関	駐車場造成	197	遺跡なし

遺跡名(市№)	所在地	調査原因	対象面積(m <sup>2</sup> )	遺構/遺物
開発覚田(№.543)	開発	個人住宅建築	499	遺跡なし
八川・城村(№.545)	城村	個人住宅建築	349	遺跡なし
西番南割(№.547)	西番	農器具格納庫建築	82	遺跡なし
上布目(№.576)	上布目	個人住宅建築	1,000	遺跡なし
北代西山II(№.597)	北代	奥羽山公園都市緑化植物園 整備事業	910	遺跡なし
開ヶ丘墓谷IV(№.606)	開ヶ丘	県営畑地帯総合整備事業	2,500	焼壁土坑(古代)
秋ヶ島(№.607)	秋ヶ島	県営畑地帯総合整備事業	4,130	土坑(奈良)/土師器・羽口(奈良)
計58件 調査対象面積 315,013.3m <sup>2</sup>				

## 2 北代縄文広場管理

北代縄文広場を市民に公開し、活用するため、管理運営を長岡校下自治振興会に委託しています。縄文広場ではさまざまな行事が行われ、また全国各地から多くの見学者があり、解説ボランティアの皆さんによるユーモアあふれる解説に耳を傾けていました。(p4・5参照)

## 3 展示・普及

### (1) 発掘速報展

「古代人の暮らし」

平成 15 年 2 月 17 日～2 月 24 日  
富山市役所 1 階多目的ホール

平成 15 年 2 月 26 日～3 月 30 日  
富山市考古資料館



発掘速報展

### (2) 遺跡現地説明会

水橋金広・中馬場遺跡 平成 14 年 11 月 3 日(日・祝)  
見学者 80 名

### (3) 展示

奥田小学校ふるさと考古教材展示室第 7 回展示  
「むかしの人はどんな家にすんでいたの?」展  
展示期間 平成 14 年 4 月 1 日  
～平成 15 年 3 月 31 日

北代縄文広場富山市内遺跡発掘速報展示コーナー展示  
「吉岡遺跡発掘速報展」

展示期間 平成 15 年 1 月 15 日～6 月 29 日

第 3 回奈良時代の富山を探るフォーラム関連企画展  
「水橋の遺跡物語Ⅲ」展

会場 財団法人水橋郷土史料館 第 3 展示室

会期 平成 14 年 10 月 1 日～10 月 14 日

内容 水橋金広・中馬場遺跡、小出城跡などの出土品展示



水橋金広・中馬場遺跡現地説明会

### (4) 資料貸出

岩手県一戸町御所野遺跡センター展示室 常設展示 (2002 年 4 月オープン)

貸出資料 北代縄文広場復元竪穴住居・高床建物写真

新潟県上越市理蔵文化財センター開館記念展示 (2002 年 10 月オープン)

貸出資料 開ヶ丘山中Ⅲ遺跡出土縄文土器・北代加茂下Ⅱ遺跡出土縄文土器・小竹貝塚出土  
縄文土器

会 期 平成 14 年 10 月 27 日～12 月 25 日

徳島県徳島市立考古資料館特別企画展「ヒスイに魅せられて～縄文から弥生へ～」

貸出資料 史跡北代遺跡出土ヒスイ玉未製品・清水堂南遺跡出土蛇紋岩製勾玉・平村下架地内  
出土ヒスイ製大珠など

会 期 平成 15 年 2 月 13 日～平成 15 年 4 月 6 日

石川県立歴史博物館「一利家とまつの生きた時代一戦い・くらし・女たち」

貸出資料 水橋金広・中馬場遺跡出土双六盤・写真

会期 平成14年4月20日～平成14年6月2日

文化庁主催「発掘された日本列島2002—新発見考古速報展—」

貸出資料 水橋金広・中馬場遺跡出土双六盤・千原崎遺跡出土埴輪状土器

会期 平成14年6月15日～平成15年2月23日

会場 東京都江戸東京博物館、北海道だて歴史の社カルチャーセンター、茨城県立歴史館、三重県四日市市立博物館、愛媛県歴史文化博物館、広島県アステールプラザ、東京都府中市郷土の森博物館

(5) 講演・研究発表

堀沢祐一 琴と地歌の会夏の頰「琴の今昔」平成14年5月25日 金岡邸

藤田富士夫 県民生涯学習カレッジ委託新川地区教養講座「翡翠と古代人の心」平成14年7月11日 県民カレッジ新川地区センター

安達志津 国立民俗学博物館みんぱくサテライト in とやま シンポジウム「人→食べ物→文化」「考古学からみた富山の食文化」平成14年7月20日 富山市民プラザ

藤田富士夫 国立民俗学博物館みんぱくサテライト in とやま シンポジウム「人→食べ物→文化」司会進行 平成14年7月20日 富山市民プラザ

鹿島昌也 大谷美術学園 SUMMER SCHOOL2002 「テラコッタで縄文土器を作ろう！」平成14年7月30日 大谷芸術交流館

藤田富士夫 滑川市立博物館専門講座「古代翡翠文化と交流①」平成14年8月4日

堀沢祐一 富山市高齢者ボランティア協議会「奈良・平安時代のまじない」平成14年8月7日 富山市南老人福祉センター南寿荘

山崎美和 越中史壇会「律令国家における越」平成14年8月24日 富山市民プラザ

藤田富士夫 滑川市立博物館専門講座「古代翡翠文化と交流②」平成14年8月25日

堀沢祐一 富山社交倶楽部定例会「人の顔が書かれた土器の謎」平成14年8月28日

藤田富士夫 富山市役所演劇鑑賞会「踊りと楽器の考古学」平成14年9月5日

藤田富士夫 婦中町教育委員会 平成14年度千坊山遺跡群関連イベント 不思議ふちゅう大発見「裏山に王国が…！」講演会「邪馬台国と埴輪王国」平成14年9月22日 婦中町ふれあい館

鹿島昌也 第3回奈良時代の富山を探るフォーラム「富山市榎谷南遺跡について」平成14年10月6日 水橋ふるさと会館

小林高範 富山市社会福祉協議会ふるさと探訪講座「富山の城発見—富山城の最新成果—」平成14年10月24日 富山市長寿ふれあいセンター

古川知明 富山市社会福祉協議会ふるさと探訪講座「富山の城発見—市内の城館発掘事情—」平成14年10月25日 富山市長寿ふれあいセンター

鹿島昌也 上条公民館まつり「水橋金広・中馬場遺跡2002」平成14年11月3日 上条公民館

近藤順子 富山考古学会発掘調査発表「開ヶ丘孤谷Ⅲ遺跡調査概要報告」平成15年1月26日 市民プラザ

鹿島昌也 富山考古学会発掘調査発表「平成14年度水橋金広・中馬場遺跡発掘調査について」平成15年1月26日 市民プラザ

藤田富士夫 富山県日本海政策課「日本海学シンポジウム」パネルディスカッション第1部「総合学としての日本海学の可能性」平成15年2月10日 高志会館

鹿島昌也 出前講座「遺跡から見た富山の歴史」平成15年2月20日 上条公民館

藤田富士夫 徳島市立考古資料館特別企画展記念講演会「ヒスイの魅力～縄文と弥生の装身具～」平成15年3月23日 徳島市立考古資料館



(6) 講座

①富山市民大学 市民の考古学「とやま中世人のくらし」

回	月 日	講 座 題 目	講 師
1	4/26	とやま中世の世界	藤田所長
2	5/17	河原石製の塔と仏像	藤田所長
3	6/14	武士のくらし	近藤学芸員
4	6/28	中世のムラの姿—金屋南遺跡のすべて—	小黑学芸員
5	7/12	鎧物のムラ—鏡・酒器・刀—	小林学芸員
6	9/13	やきものと流通	小林学芸員
7	9/27	武士の館と港町	小林学芸員
8	10/11	現地学習（白鳥城など）	小林学芸員
9	10/25	中世のあそび—水橋の双六盤—	鹿島学芸員
10	11/8	中世のまじない—末年への神だのみ	堀沢学芸員

②富山大学後期授業博物館学Ⅲ「富山市北代縄文広場の管理・運営について」

平成14年11月11日 堀沢学芸員

(7) その他

①社会に学ぶ14歳の挑戦

出土品整理・遺跡発掘調査業務の体験

奥田中学校（参加者2名）

平成14年7月1日(月)～7月5日(金)

新庄中学校（参加者1名）

平成14年7月1日(月)～7月5日(金)

北部中学校（参加者1名）

平成14年10月7日(月)～10月11日(金)

北代縄文広場管理業務の体験

呉羽中学校（参加者4名）

平成14年6月10日(月)～6月14日(金)

②雄峰高校特別講座「社会」（参加者10人）

平成14年10月23日(水)

講師 鹿島学芸員

「土の中にある歴史—若王子塚古墳と

水橋金広・中馬場遺跡」

水橋金広・中馬場遺跡発掘現場

平成10月28日(月)

講師 近藤学芸員

「縄文時代のアクセサリーをつくろう

—勾玉づくり—

北代縄文館

③研修会参加等

独立行政法人奈良文化財研究所研修

「特別研修 測量外注管理過程」（原田学芸員）

「特別研修 自然科学分析過程」（近藤学芸員）

全国史跡整備市町村協議会北信越地区協議会総会（福井県勝山市）

④映像等

テレビ出演 藤田富士夫 KNB「こんにちは富山県です 富山発 日本海学のすすめ」

平成14年6月23日

藤田富士夫 NHK「みんないけ富山 日本海学について」平成15年2月17日

ビデオ『映像考古学』第3巻 株式会社日本通信教育連盟

ビデオ『古代遺跡は語る』富山市教育委員会埋蔵文化財センター



社会に学ぶ14歳の挑戦



雄峰高校特別講座

#### 4 遺跡地図管理

新遺跡の追加 607 秋ヶ島遺跡（奈良時代の集落跡、土師器・羽口出土）  
遺跡範囲の変更等

#### 5 研究

- (1) 小研究会(会場：埋蔵文化財センター会議室)  
2002,12,16 大成エンジニアリング 小林貴郎氏 「富山市金屋南遺跡の報告」
- (2) 論文・報告・紹介(2002年3月～2003年3月)
  - 小黑智久 2002,3 「富山市清水堂B遺跡の井戸側構造の復元」『富山市考古資料館紀要』第21号
  - 小林高範 2002,3 「富山市金屋南遺跡出土の鉄鍋の検討」『富山市考古資料館紀要』第21号
  - 古川知明 2002,3 「原始のころ」『荻浦郷土史』荻浦郷土史編集委員会
  - 古川知明 2002,3 「富山市北代遺跡の史跡整備」『明日への文化財』48号 文化財保存全国協議会
  - 佐藤一夫 2002,3 「タカラガイ製装飾品の模倣品について」『フィールドの学』
  - 藤田富士夫 2002,4 「大地の語り シリーズ第9回 月岡・神仙の理想郷」『観光とやま』No.87 富山市観光協会
  - 大野英子 2002,4 「文化財レポート 富山県婦中町千坊山遺跡群」『日本歴史』第647号
  - 藤田富士夫 2002,5 「魏志倭人伝の「奴国」と師負王国」『村田文夫先生還暦記念論文集 地域考古学の展開』村田文夫先生還暦記念論文集刊行会
  - 小黑智久 2002,5 「特集 2001年の考古学界の動向 古墳時代（北陸・中部）」『月刊考古学ジャーナル』No.488 ニュー・サイエンス社
  - 藤田富士夫 2002,6 「逆さ地図から見えてくるもの—古代北陸像を考えるヒント—」『北國文化』第12号 北國新聞社
  - 越川欣和 2002,6 「入広瀬村柿ノ木遺跡の三角？ 形土製品について」『越佐補遺些』第7号 越佐補遺些の会
  - 藤田富士夫 2002,7 「大地の語り シリーズ第10回 富山県のへソ」『観光とやま』No.88 富山市観光協会
  - 藤田富士夫 2002,7 「第1回 島と半島の視点から」『富山市日本海文化研究所紀要第16号 日本海文化研究所公開講座 島と半島の日本海文化平成13年度記録集』富山市日本海文化研究所
  - 堀沢祐一 2002,7 「第9回 島をめぐる祭祀文化—韓国扶安竹幕洞祭祀遺跡について—」『富山市日本海文化研究所紀要第16号 日本海文化研究所公開講座 島と半島の日本海文化 平成13年度記録集』富山市日本海文化研究所
  - 古川知明 2002,7 「第10回 佐渡一島の考古学—」『富山市日本海文化研究所紀要第16号 日本海文化研究所公開講座 島と半島の日本海文化 平成13年度記録集』富山市日本海文化研究所
  - 藤田富士夫 2002,8 「海人論」『AERA MOOK 古代史がわかる』朝日新聞社
  - 藤田富士夫 2002,8 「古代翡翠文化と沼名川比売」『季刊 河川レビュー』第119号 新公論社
  - 藤田富士夫 2002,10 「日本列島の球状耳飾の始原に関する試論」『縄文時代の渡来文化』雄山閣
  - 藤田富士夫 2002,10 「大地の語り シリーズ第11回 卑弥呼時代の王墓」『観光とやま』No.89 富山市観光協会
  - 藤田富士夫 2002,10 「富山県極楽寺遺跡」『縄文ランドスケープ』ジョーモネスクジャパン機構
  - 藤田富士夫 2002,11 「コラム 朝日長古墳出土の金銅製品とその意義」『氷見市史7 資料編五 考古』氷見市
  - 越中石器の会（早川清・市島昇）2002,11 『早川荘作所蔵 遺物写真集』
  - 藤田富士夫 2003,1 「大地の語り シリーズ第12回 王者ここに眠る」『観光とやま』No.90 富山市観光協会
  - 久々忠義 2003,1 「フォーラム『古代越中国の仏教と瓦生産』を聞いて」『富山考古学会連絡紙173』

- 藤田富士夫 2003,2 「富山県における四隅突出墳出現の系譜について」・討論『大境』第23号  
富山考古学会
- 古川知明 小黒智久ほか 2003,2 「富山県古墳副葬品集成」『大境』第23号 富山考古学会
- 古川知明 林寺殿州 2003,2 「砺波市池原遺跡採集の旧石器時代遺物について」『大境』第23号  
富山考古学会
- 麻柄一志 2003,3 「富山市御坊山遺跡出土の瀬戸内系石器群」『富山市考古資料館報』No.40 富山市考古資料館
- 小黒智久 2003,3 「越中東部地域における初期須恵器」『富山市考古資料館報』No.40 富山市考古資料館
- 鹿島昌也 2003,3 「古代越中国における初谷南遺跡出土瓦の位置づけ」『富山市考古資料館紀要』第22号 富山市考古資料館
- 上原真人 2003,3 「初谷南遺跡で考えたこと」『富山市考古資料館紀要』第22号 富山市考古資料館
- 川崎 晃 2003,3 「富山市初谷南遺跡出土ヘラ書き土器『恵口』について」『富山市考古資料館紀要』第22号 富山市考古資料館
- 小栗由希代 2003,3 「古代越中における陶硯に関する一考察—円面硯の形態を中心として—」『富山市考古資料館紀要』第22号 富山市考古資料館
- 鹿島昌也 2003,3 「富山市水橋小出地内の小出城跡について」『富山市考古資料館紀要』第22号 富山市考古資料館
- 松澤那々子 2003,3 「小出城跡出土の漆器についての一考察」『富山市考古資料館紀要』第22号 富山市考古資料館
- 広田克昭 2003,3 「呪符『急々如律令』をめぐって—その史的意義—」『富山市日本海文化研究所所報』第30号 富山市日本海文化研究所
- 金子玲子 2003,3 「聞書 富山市北部の伝承—大村街道・豊田城」『富山市日本海文化研究所所報』第30号 富山市日本海文化研究所

(2) 発掘調査報告書(2002年度)

- 126 富山市関ヶ丘ヤシキダ遺跡ほか発掘調査報告書
- 127 富山市関ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡ほか発掘調査報告書
- 128 富山市関ヶ丘中遺跡ほか発掘調査報告書
- 129 富山市内遺跡発掘調査報告書
- 130 富山市北押川C遺跡発掘調査報告書
- 131 富山市水橋専光寺遺跡発掘調査報告書
- 132 富山市金屋南遺跡発掘調査報告書Ⅱ
- 133 富山市北代西山Ⅱ遺跡・茶屋町遺跡発掘調査報告書

6 埋蔵文化財センター組織

所長1—— 所長代理1—— 主任学芸員1—— 学芸員6—— 嘱託3  
(生涯学習課主幹)

└── 臨時1

- ①埋蔵文化財調査費 327,215千円  
発掘調査7遺跡、出土品整理2遺跡、市内試掘確認調査、市内出土品整理
- ②体制整備・一般管理費 60,000千円
- ③普及活動費 770千円  
「奈良時代の富山を探る」フォーラム、展示
- ④遺跡・史跡保護管理費 10,070千円  
北代縄文広場管理、北代縄文広場第2期整備

藤田富士夫

(徳島文化財センター所長)

はじめに

最近、中国で報告された攻玉遺跡を紹介する。これまで攻玉資料は断片的に知られていたが、今回、玉器が盛行する良渚文化の良好な攻玉資料が報告された。

※以下、紹介を旨とするので報告を意識し合わせて理解を助けるための補訳をした。日本の考古学用語に置換した部分(粗砂岩→粗砥)もあるが、意味が通じるものはそのままにした箇所がある(例・「切割」、「線彫」、「解玉材」など)。仔細は、原文を参照していただきたい。

文献 南京博物院 2001年「江蘇句容丁沙地遺跡第二次発掘簡報」『文物』第540期(文物出版社 2001年5月号)

### 中国・丁沙地遺跡

丁沙地遺跡は、中国江蘇省句容市に所在する。1998年7～11月に南京博物院考古研究所が行ったトレンチによる総面積約350㎡の発掘調査で、第四文化層から土器10余点のほか大量の破片や攻玉資料(原石ほか)78点、小型石器261点が出土した。特に、H3調査区のT0103では、長さ2.4m、幅0.7m、深さ0.6mの略長方形の土坑から、挟砂(砂混じり)紅陶鼎足、玉材、小型石器が出土した。この土坑は攻玉工房跡と見ることができる。相伴した陶器は良渚文化晩期に属する。T0103区の土坑を中心とした攻玉資料は次の通りである。

#### 攻玉資料

1、玉器8点 「玉錐形飾」の未製品が認められる。

2、玉材70点 原石が12点ある。残りの58点(註・以下のa～eの合計は59点となる。違いの理由は分からない)には擦切りなどの加工痕が認められる。白色や灰緑色などを呈する透閃石が主で、わずかに陽起石や輝石を含む。硬度は5.5以下である。玉材の詳細は次の通りである。

a. 管錐痕を有する玉材11点。管錐で抜かれた玉芯材で、片面穿孔と両面穿孔とがみられる。形状から①琮と錫類の錐芯、②璧と鉞類の錐芯、③柱形器類の錐芯、の三種類がある。

b. 薄片切割痕玉材(薄片による擦切痕を有する玉材)17点。薄片状の砂岩質の石錐で、上下から施溝を加え、最後に打撃によって二分割する技法による。V字あるいはU字状の施溝痕を有する。いわゆる施溝分割技法をいう。

c. 線切割痕玉材(柔軟性をもった工具で煤材を用いて切割された玉材)10点。切割面に弧状の凹線が残される。弧面にU字形の切口が見える。

d. 薄片切割技法+線切割痕玉材5点。線切割痕玉材の平面体に薄片切割による施溝が加えられる。

e. 部分平面磨製玉材16点。切割や管錐の痕跡が無く、平面に細密な研磨痕跡が認められる。

#### 3、工具

a. 線彫工具関連遺物は261点ある。素材には燧石(124点)、黒曜石(127点)、石英(8点)、水晶(2点)があり、これらは石核(120点)、石片(129点)、彫刻器(燧石10点、黒曜石12点)に分類される。彫刻器は、長さ、幅ともに3cm以内の小型石器である。器表面には、打撃による再加工痕跡が見られる。刃部は鋭利、弧状を成す。薄片切割工具は5点ある。4点は砂岩質で、他の1点は鉄分を含んだ比較的大型点。刃部は二種類ある。1つは、扁平な薄片切割工具で

3点ある。黄褐色の砂岩製のもの。刃部は平滑で、残存長 5.9 cm、厚さ 0.5 cm。灰褐色の砂岩製のもの。刃部には横向きの擦痕がある。残存長 4.9 cm、厚さ 0.5 cmある。1つは、三角形を成す切削工具である。刃部が 52° と 45° のものが出土している。玉材の切削痕跡に 52° の角度と合致するものがある。

b. 砥石は 37 点ある。すべてが砂岩製である。砂粒には粗、中、細、極細の四種がある。また、研磨面の形状から四分類できる。①平面研磨砥石 19 点(粗砥 13 点、中砥 3 点、細砥 1 点、極細砥 2 点)。②凸弧面研磨砥石 6 点(粗砥 5 点、中砥 1 点)。いわゆる棒状砥石で、玉器の内孔研磨用であろう。③凹弧面研磨砥石 2 点(粗砥 1 点、細砥 1 点)。表面に凹溝を有するもの。いわゆる玉砥石や筋砥石と呼ばれるものに相当する(日本のそれは数本の溝が一般的だが、本遺跡では 1 本)。④棒錐形研磨砥石 2 点(先端が円錐状で尖部が鈍角を成す。孔底などの研磨用)。

c. 解玉砂。粗細の砂岩の塊がある。解玉砂すなわち「媒材」資料を指す。

#### 結語

1. [文化性質と年代] 太湖地域の良渚文化の影響を受けている。土器は良渚文化晩期の特徴を示す。
2. [第四文化層の遺物の性質] 玉材と小型石器、砂岩類の工具などを出土しており、攻玉工房が確認された。
3. [玉器加工の初歩的探求] 石器加工技術から玉器加工の専用の技術が顕著化するとともに複雑化している。線切削と薄片切削の結合技法が見られ、玉器内部を専門に研磨する棒状砥石が出現している。良渚文化の玉器加工の成熟段階を示している。

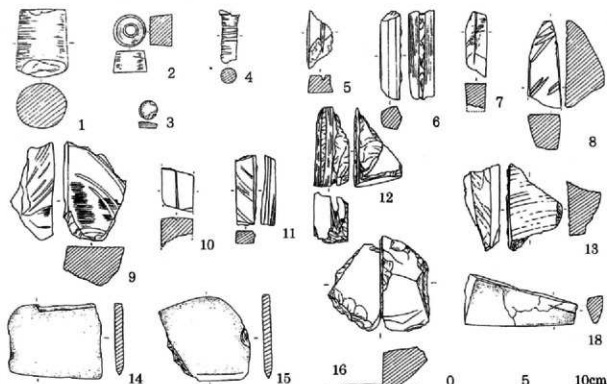
#### 【紹介者解題】

本報告は、「簡報」とあるように概報である。土器から「良渚文化晩期」に比定されている。絶対年代は記載されていないが既知の年代観からすると B.C2500 年頃に営まれたものであろう。良渚文化は精緻な玉器製作で知られているが、本遺跡では良好な攻玉資料が得られた。

中でも、薄片切削工具による「擦切り技法」の存在は、日本列島での磨製石斧の擦切り技法を想起させる。また、報告では玉材に残された「薄片切削痕玉材」と「薄片切削工具」を、「線切削痕玉材」と「小型石器」との関係を示唆するところとなっている。「線切削痕玉材」は、深淺不統一な弧状凹線が観察され、本文でも「柔軟性をもった工具で媒材を用いて切削された」と記述されている。ただし、工具の解説ではそれに小型石器が関与している記述となっている。

ここでは、原文の「線切削痕」をそのまま記したが、「線」には、「糸」や「針金」の意味がある。それを意識して理解した方が実態に近い。一般的には、線切削痕は「動物の強靱な筋や動物の皮などを編んだ縄を弓形の糸鋸とし、媒材を用い水をかけながら玉材を挽き切る」(林華東ほか『20 世紀中国考古十大発見』浙江古籍出版社 2001 年)ことで生ずるとされている。

この手法について、紹介者は格別関心をもっている。かつて「玦状耳飾」(『縄文文化の研究 7』雄山閣 1983 年)の製作工程を考察した折、第 6 工程(孔壁のくの字状突出を切除する)で、「工具は柔軟性をもつ材質の可能性」があることを指摘した。実は、第 2 工程(切截)でも「線切削痕」と同様の痕跡が確認できるのである。私は、それ以降中国での類似技法に留意してきた。中国・丁沙地遺跡は、小型石器を「線切削痕玉材」の工具として示唆するが、図示された小型石器の使用痕などの検討が必要であらう。本遺跡での攻玉の実態は、日本での攻玉を知る上でも参考となると多い。本報告の刊行が楽しみである。



攻玉資料実測図

1. 琮・錫類の錐芯、2~3. 璧・鉞類の錐芯、4. 柱形器類の錐芯、5~7. 薄片切割痕玉材、8~10. 線切割痕玉材、11~13. 薄片切割技法+線切割痕玉材、14~15. 扁平薄片切割工具、16. 玉材、17・18. 三角形切割工具

寄贈資料 (貴重な資料を1件寄贈いただきました。)

亀田正夫氏寄贈資料一覧

遺跡名	分類	種別	時代	点数	遺跡名	分類	種別	時代	点数		
北代	土器	縄文土器	縄文前 ~晩期	228	北代	石器	石棒・原石等	縄文	30		
		土器器・須恵器	奈良・平安	25			石棒	縄文	1		
	土製品	有孔球状土製品等	縄文晩期	2			バステル形石製品	不明	6		
		土偶	縄文	5			自然遺物	骨	不明	1	
		土玉	縄文	1			製鉄遺物	羽口	奈良・平安	1	
		土器片円板等	縄文	23		鉄滓	奈良・平安	2			
		土罐	奈良・平安	2		小計		1119			
		石器	磨製石斧・磨製石器	縄文		74	御坊山	石器	ナイフ形石器	旧石器	2
			打製石斧	縄文		7			剥片	旧石器 ~縄文	14
	固み石・敲石		縄文	7		块状耳飾			縄文前期	1	
	石鏃		縄文	15		小計			17		
	石鏃・石槍		縄文	200		北押川・ 墓ノ段		石器	剥片	旧石器	2
	石鏃・石匙		縄文	37			砥石		不明	1	
	玉・玉未成品・玉飾品		縄文	7		小計		3			
玉原石等	縄文	16	八町	土器	縄文土器	縄文	2				
剥片	縄文	429			合計		1151				

亀田正夫氏（大沢野町春日）より 北代遺跡ほか市内遺跡出土石器等

史跡北代遺跡（富山市北代縄文広場）で採集された縄文土器・石器 1119 点、御坊山遺跡の石器 17 点、北押川・墓ノ段遺跡の石器 3 点、八町遺跡の縄文土器 2 点の計 1151 点を寄託していただきました。

亀田正夫氏は、富山考古学会会員として、富山県内や岐阜県などの旧石器・縄文遺跡を精力的に踏査され、大沢野町野沢遺跡をはじめとする重要な旧石器の発見をされています。

北代遺跡の縄文時代の石器資料は特に豊富で、石鏃の原料となった各種石材（黒曜石・安山岩・玉髄・めのう・ハリ質安山岩など）も多く、この遺跡で大量に石鏃を製作していたことがよくわかります。

また、御坊山遺跡で採集されたナイフ形石器などの旧石器は瀬戸内系の技術を用いた石器群で、麻柄一志氏によれば、これらの石器群を携えた人々は石器原材の供給に苦しみながらも他の石材を利用することによりこの地域で適応を試みた痕跡を示す良好な資料と評価できるとされました。

（麻柄一志氏による旧石器の報告は「富山市考古資料館報」No.40に掲載しています）



加藤達行

(埋蔵文化財センター所長代理)



富山市埋蔵文化財センターでは、富山大学の協力を受けて、今年度から富山城址の地中レーダー探査調査事業に始めた。東ノ丸は、本丸の東、島状の郭をもつ一角で、現在の城址大通りから桜木町の地域にあたる。今回前々から気になっていたのを、整理しておきたい。

正保4年(1647)の「越中国富山城絵図」(金沢玉川図書館蔵)には、薪丸とあり、島状の郭はない。延宝5年(1677)「越中国富山城絵図」には、(前々年火

災後二代正甫が幕府に提出した図)東ノ丸とあり、東に新たに郭が描かれている。その間の堀には、「東出丸之掘埋申度由亡父淡路守申上候へ共、其俣差置申度候事」。また、東端には「同所東方新規堀掘申度候(以下略)」とあり、富山藩初代藩主前田利次が、東ノ丸を東に拡張する計画をしたが、実施できずそのままとしたことがわかる。

天保3年(1832)「越中国富山城焼失揚之覚」(富山県立図書館蔵)には、島状の郭ができ、東ノ丸とあり、「天明から安政の富山城図」には、中之御屋敷とある。天保2年の大火では、東ノ丸の御殿が焼失していることから、島状の郭には御殿があったと考えて差し支えないであろう。

また、延宝3年、正徳4年(1714)の火災では本丸御殿が焼失した。その後、天保4年まで再建されなかったという。享保15年(1730)5代藩主となる利幸の端午の節句が中之御屋敷で行われている。(「町吟味所触書」)享保はじめ頃までに、東ノ丸東端が掘削され、島状の郭がつくれ、ここに中之御屋敷が造営されたものであろう。

十代利保は、嘉永元年(1848)隠居し、病氣療養のため富山に戻り、翌年、屋敷を造営し、名称を中之御屋敷から千歳御殿に改めた。この御殿は、安政2年(1855)焼失したが、再建された。明治四年には、廃藩置県により富山城は、廃城となり、建物は解体され、払い下げられ、石垣撤去、埋め立てられていった。

東ノ丸は、藩政時代に新しく整備された区画であり、今後の調査の参考となれば幸いである。

富山市教育委員会 埋蔵文化財センター  
所報 富山市の遺跡物語 第4号

平成15年3月31日

編集・発行 富山市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒930-0803 富山市下新本町5-12

TEL 076-442-4246 FAX 076-442-5810

URL <http://homepage2nifty.com/kitadai/> (北代縄文広場と兼用)

E-mail [maizoubunka-01@city.toyama.toyama.jp](mailto:maizoubunka-01@city.toyama.toyama.jp)

印刷 大栄印刷株式会社

〒939-8232 富山市南央町3-41

TEL 076-429-7080